



スローガン
「幸せ あふれる 北小」
～私も幸せみんなも幸せ～

はぴねす

時津町立時津北小学校
学校だより R7第3号

令和7年5月23日
文責：校長 今井大輔

体育祭、最高の思い出をありがとう！

一週間前から心配された天候でしたが、最高のコンディションの中、5月18日(日)に盛大に体育祭が開催されました。子供たちの歓声と笑顔が、時津北小学校のグラウンドいっぱいには広がった一日となりました。

まず何といっても盛り上がったのは、全学年が力を合わせた学級対抗リレー。バトンが繋がるたびに、応援席からは割れんばかりの拍手と声援が送られました。仲間たちの思いを胸に、最後まで諦めずに走り抜く姿は、私たちに大きな感動を与えてくれました。

1年生にとっては小学校初めての運動会。可愛らしい玉入れでは、一生懸命に玉を投げる姿に、会場全体が温かい雰囲気になりました。玉がたくさん入るたびに、歓声があがり、子供たちの笑顔がキラキラと輝いていました。



3年生の綱引きは、まさに力と力のぶつかり合い！「それ！それ！それ！」という大きなかけ声に合わせて、赤組も白組も、持てる力を出し切って綱を引きました。必死に踏ん張る子どもたちの表情は、真剣そのものでした。



2年生と4年生によるチャンス走は、ドキドキとワクワクがいっぱい！ゴール直前まで勝利が分らない白熱したレースや、趣向を凝らした障害物に、子どもたちは笑顔で挑戦していました。何が起るかわからない展開に、応援席からも大きな笑い声援が湧き上がりました。



そして、運動会のフィナーレを飾ったのは、5・6年生によるソーラン節。力強い太鼓の音と、勇ましい掛け声がグラウンドに響き渡りました。全体を使ったダイナミックな踊りは、まさに圧巻。高学年としての意気込みと、伝統を受け継ぐ誇りが感じられ、会場全体が感動に包まれました。



今年の運動会も、子供たちの笑顔、真剣な眼差し、そして何よりも一生懸命な姿が、私たちの心に深く刻まれました。温かいご声援を送ってくださった保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。この運動会で得た経験を活かし、子供たちはこれからも大きく成長してくれることでしょう。



※今回の体育祭では、保護者観覧エリアを多く設けるために、本部や放送を反対側に配置しました。放送の電源に関しては、長崎車両センター(TAX)様にご提供いただきました。

今号より裏面に「特別支援教育」について時々掲載します。本校にも週一回来校している若杉指導教諭の執筆になります。

つぶやき

大きな声では言えないが、毎週欠かさずアニメ「薬屋のひとりごと」を観るのがひそかな楽しみである。先日放送された「選択の廟」の回では、ちょっと嬉しい出来事があった。3色の扉から一つを選んで謎を解く場面で、そのからくりが私には見事に分かったのだ。これは、私が生まれつき持っている「ある能力」のおかげだった。

私が子供の頃、自宅の窓から見える景色を描いていた時のことである。母に「その屋根の色、少し違うんじゃないかな？」と言われたことがあった。自分では赤色だと思っただけなのに、母には緑色に見えていたのだ。当時はその意味がよく分からず、少し戸惑ったのを覚えている。その後、学校の健康診断で色覚検査を受け、私は「色覚異常」であることが分かった。当時はそれがどういうことなのか、漠然とした不安を抱いたことを覚えている。日常生活で特に困ることはなかったが、図工の時間に色を選ぶ時や、将来の職業を考える際に「もしかしら、この仕事は難しいのかもしれない」と感じることもあった。

しかし、大人になり様々な経験を積む中で、私はあることに気づいた。それは、色の見え方が他の人と少し違うということ。そして何よりも、「色覚異常」は決して特別なことではない、ということだ。日本では、男性の約20人に1人(欧米では約10人に1人)、女性の約500人に1人(欧米では約200人に1人)の割合で、何らかの形で色の見え方が異なる方がいると言われている。近年では、色覚に配慮したデザインや、情報を色だけに頼らない表示方法など、様々な工夫が社会に広がりつつある。学校でも、発色の良いチョークを使ったり、教材を提示する際の色を組み合わせて配慮したりしている。

今回のアニメでは、登場人物の王族が私と同じ緑色系色弱だった。だからこそ、私は謎を解くことができたのだ。先に述べた割合から考えると、北小の子供たちの中にも「色の見え方」に困り感を持っている子がもしかしたらいるかもしれない。もし気になることがあれば、ぜひ気軽に学校へ相談してほしい。(簡単な検査で、お子さんの目の特性を知ることができます。)

特別支援教育だより

めばえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和7年5月16日
時津町立小中学校
指導教諭 若杉 聡
第1号

特別支援教育って何？

「特別支援教育」とは学校の生活や毎日の勉強で困っている子ども（障害の有無に関わらず）に対して、その子どもに合った適切な指導・支援を行うことで、必要な力を高める教育のことです。また、その子の価値を高める教育ともいえます。

今から18年前の平成19年、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられました。この年は特別支援教育元年と呼ばれ、全ての学校における支援をさらに充実していくこととなりました。2022年の文部科学省によると、小・中学校の通常学級におよそ8.8%、11人に一人程度、「勉強がわからない」「友達となかなかうまくいかない」「ルールが守れない」など、学習や生活面で、支援が必要と思われる児童・生徒が在籍していることが分かりました。

時津町では、各学校の実態にあった方法で、全職員が連携をしながら支援を進めていく体制を取っています。具体的には、児童のことで気になることがあったら、担任や職員、保護者の要請を受けて校長・教頭・担任・特別支援教育コーディネーター等が集まり、必要な支援を話し合ったり、必要なときは外部機関とも連携したりしながらよりより指導・支援をめざしています。お子さんのことで気になることがあれば、上記の担当者に限らず、相談しやすい職員にご相談ください。

特別支援NEWS

～スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーについて～

今年度も時津町内全ての小中学校に『スクールカウンセラー』が配置されています。スクールカウンセラーは、専門的な知識・経験をもって、児童が抱える心の問題に適切に対応するためカウンセリングなどの支援を行います。また、必要ならば保護者、教職員にもアドバイスや支援を行います。

またこの他、時津町には『スクールソーシャルワーカー』が、不定期ですが週に2～3回の頻度で配置されています。こちらは、児童生徒に影響を及ぼしている家庭・学校・地域環境の改善に向けて、学校・家庭・地域の支援ネットワークを築く福祉の専門家です。相談されたいことがありましたら担任、コーディネーターに連絡ください。

よろしくお願いします

本年度も時津町の指導教諭として勤務します^{わかすぎ さとし}若杉 聡です。勤務校は時津東小ですが、町内全ての小中学校に出入りし、お子さんらを観察したり、各先生方と一緒によりよい指導・支援を考えたりしています。気になることがあれば、ご相談いただければと思います。

